



事業名：安乗埼灯台利活用推進事業（灯台×クロスポイント）

コンソーシアム名：安乗埼灯台観光活性化推進コンソーシアム

対象灯台：安乗埼灯台（三重県志摩市）

企画概要

事業名：安乗埼灯台利活用推進事業

令和5年度～令和6年度の取り組み

- 安乗埼灯台150周年記念イベントの開催、灯台観光ニーズ調査や地域WSの実施。
- 灯台を活用したイベントの開催（夏季、冬季）や安乗埼灯台資料館リニューアルの基本設計。

令和7年度の計画

- 安乗埼灯台資料館の館内リニューアルを実施し、より使いやすい資料館へ変えていきます。
- 灯台夜間参観イベントと安乗地区周辺ガイドツアーを開催し、灯台の魅力を引き出します。
- 灯台関係者や地域の方とWSを行い、地域でまちづくりを進めていきます。



安乗埼灯台資料館の館内リニューアルを実施

灯台を「**クロスポイント**」と捉え、「人と人」「過去と現在」「空間と空間」それぞれを繋ぐ役割を強化し、地域住民や来訪者の交流拠点づくりやWSの基盤を構築する。



灯台夜間参観イベントと安乗地区ガイドツアーの実施

灯台の夜間参観と周辺ガイドツアーを組み合わせたイベントを実施し、灯台や地域文化の魅力を再発見につなげ、地域活性化及び観光誘客に繋げていく。



安乗埼灯台利活用推進事業WSの実施

安乗地区の地域活性化、灯台の利活用促進を目指し、灯台関係者や地域住民が主体となり、具体的な活性化事業を立案・実行する。



安乗地区のポテンシャル

参観灯台としての「絶景」「癒し」が高く評価されている。周辺には安乗の人形芝居や、あのりふぐ等の歴史・食文化資源が点在し、高い観光ポテンシャルを有する。



観光客のニーズ

アンケート結果では「絶景」(83.2%)と「癒し」(57.1%)を求めている。また、グルメや絶景巡りコースへの関心も高い。地域の歴史・文化・食・絶景を統合した体験価値の提供が必要。



アクセス・滞在の課題

道幅の狭さへの不満が90.1%と極めて高い。滞在時間は30分未満が約半数47.6 (%)であり、通過型観光になっている現状がある。



施設・地域連携の不足

資料館の未訪問率が41%と高く、交流拠点として十分に活用されていない。周辺の食や観光地との回遊性も弱く、地域連携の強化が必要。

目標

Plan / 計画時点

- 資料館を交流・情報の拠点としてリニューアル計画を策定する。
- 夜間参観やガイドツアー等の体験型コンテンツを開発し、滞在時間を延伸させる。
- 地域資源（食・歴史）と連携し、周遊性を高める。



Do 実行 / 2026年2月時点の達成状況

- 安乗埼灯台資料館館内リニューアルを完了。
- 町歩きトワイライトツアー試行。安乗岬園地周遊ガイドの完成。
- コンソーシアム幹事社あのりおこしが航路標識協力団体の認定を受け、地域WSを経て自走体制を構築。

企画運営パートナー

1 あのおこし

安乗埼灯台の活性化を目指す、航路標識協力団体として、資料館を拠点に様々な事業を展開することで、安乗埼灯台の歴史的・文化的価値を効果的に発信することができる。

2 志摩市観光・プロモーション課

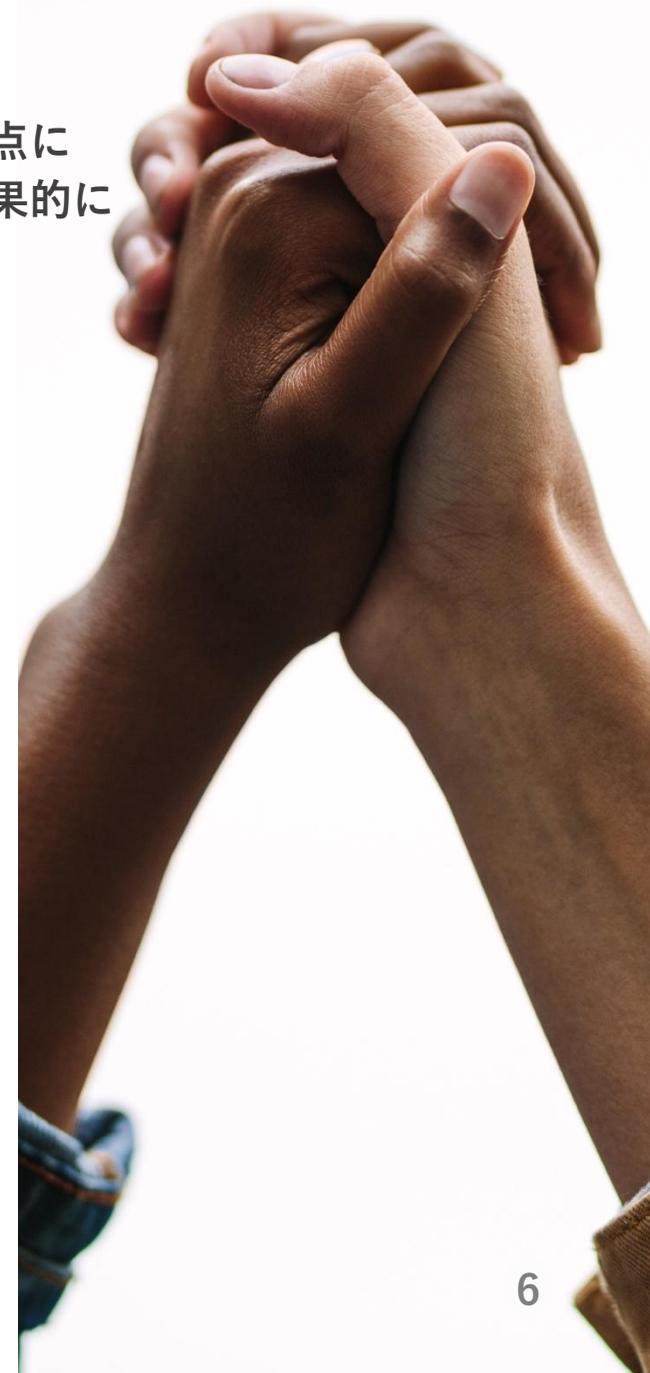
観光資源である灯台の魅力を向上させ、観光客の増加を促すことで、地域経済の活性化に繋げることができる。また、市民活動の活性化や地域コミュニティの形成を支援し、行政としての役割を果たす。

3 志摩市灯台活用推進協議会

灯台の利活用を推進する団体として、地域の灯台観光活性化を図る。

4 きんこ芋工房上田商店灯台カフェ

安乗岬園地休憩舎の指定管理者（灯台カフェの運営）安乗地区の観光拠点において、観光客と地域を結びつける取り組みを行う。



～「ALL安乗」地域プラットフォームの構築～

ツアーイベントや資料館リニューアルなど灯台観光を推進！

1 あのおこし **》》** 地域プラットフォームの核として活動

地域プラットフォームの中心として躍動！町歩きトワイライトツアーのガイドも務め、航路標識協力団体として、地域の自走の中核として、今後も活動していく。

2 志摩市観光・プロモーション課 **》》** 関係機関との調整連携

関係機関とのWS・許認可含めた調整、市の広報媒体を活用した情報発信、地域振興団体との連携ハブとなり、本コンソーシアム事務局として機能。

3 志摩市灯台活用推進協議会 **》》** 航路標識協力団体として連携

灯台を活用した地域活性化に関する専門的助言、イベント開催に関するノウハウ提供、同じ志摩市内の航路標識協力団体として連携。

4 きんこ芋工房上田商店灯台カフェ **》》** イベント運営のサポートを実施

安乗埼灯台の灯台カフェとしてのイベント協力。安乗岬園地イベントの立案協力。安乗の観光情報発信拠点として機能。

良かったこと



安乗地区全体で考える体制作りの成功！

行政だけでなく、地域の事業者や灯台関係者、飲食店も巻き込んだWSを適時開催し、安乗地区の課題とポテンシャルに自ら向き合い、試行していく、持続的な体制づくりの礎を築けた。

「自走できる観光プログラム」の開発！

WSから生まれた町歩きトワイライトツアーは地域だけで試行できる体制を構築し、行政からの補助金等がなくても、参加料のみで運用し、地域で稼げる可能性を見いだせた。



反省点・改善案



地域の宿泊事業者との連携

今後も地域への宿泊者増加による経済効果の拡大を図るには、地元宿泊事業者と連携した取り組みが不可欠であり、地域内外の多様な主体を巻き込みたい。



地域の担い手後継者不足

今後の自走体制を促進していくためにも、人手が欲しい。地域の若手中心に思いのある人などを巻き込んでいき、イベントなど盛り上げていきたい。

事業活動として 何をするのか

～価値を提供する源泉となる活動～

01

事業活動その1

安乗埼灯台町歩きトワイライトツアーの実施

事業活動その1：安乗埼灯台町歩きトワイライトツアーの実施

企画の狙いとターゲット

（絶景・癒しの強み×課題解決）

- 強み：絶景・癒しを活かした体験型観光。
- 課題解決：滞在時間30分未満、食との連携不足を解消。
- ターゲット：絶景・癒しを求める個人旅行者、文化体験志向層、家族連れ。



ツアー行程と提供価値

（所要時間：約2時間 参加料金：1,000円）

1. 集合（安乗地区海岸）→ 地元ガイドによる導入説明
 2. 町歩き（海女漁場・安乗神社・安乗の人形芝居小屋）
 3. 薄暮の灯台参観（茜色に染まる絶景体験）
 4. 灯台カフェ（郷土食「きんこ芋」スイーツ）
- 提供価値：風景・伝統・文化の3要素クロスポイント体感



ツアーのポイント

- ◇通常入れない薄暮時間の灯台参観で「特別な絶景体験」を提供
- ◇地域ガイドによる深掘り解説と郷土食体験で満足度を高める
- ◇歴史、文化、食、絶景を凝縮した、高付加価値な体験型観光として実施

400年以上守り続けられた文化と歴史を参加者が直接体感！ ～安乗は「海を通じて物や人が交わる場所」クロスポイント～

10/4 安乗埼灯台 町歩きトワイライトツアー

【実績】総参加者数：約20名（一般参加者10名＋関係者・メディア10名）
→メディア取材：テレビ局2社が取材に参加し、ニュース等で報道

【内容】町歩き：安乗の海女さん漁場見学 安乗神社（正式参拝・解説）安乗の人形芝居小屋舞台裏見学（安乗の人形芝居保存会会長ガイド付）
特別参観：薄暮時間帯の灯台登塔、外海と内海の潮目や絶景鑑賞
食体験：きんこ芋工房上田商店灯台カフェでの「きんこ芋」スイーツ体験

【参加者の声】参加者満足度アンケート 平均 4.2/5点 達成！
「安乗文楽の舞台裏が見られて貴重な経験だった」
「外海と内海の潮目の違いが景色で分かって感動した」
「大満足。また朝日や月の時間帯にも登ってみたい」



👍 良かったこと



- 👍 歴史・文化・景観・食を一体で楽しむ体験型観光の実証
- 👍 参加者の満足度と再訪意向の獲得
- 👍 テレビ取材等によるメディア露出と認知拡大
- 👍 地域自走型ロールモデルとして試行成功



反省点・改善案



- ・天候リスクへの対応（代替導線とレクチャー資料の整備）
- ・季節別バリエーションの開発（朝日、月見、星空観察会など）
- ・予約・決済・ガイドオペレーションの標準化と効率化及び運営体制確立

02

事業活動その2

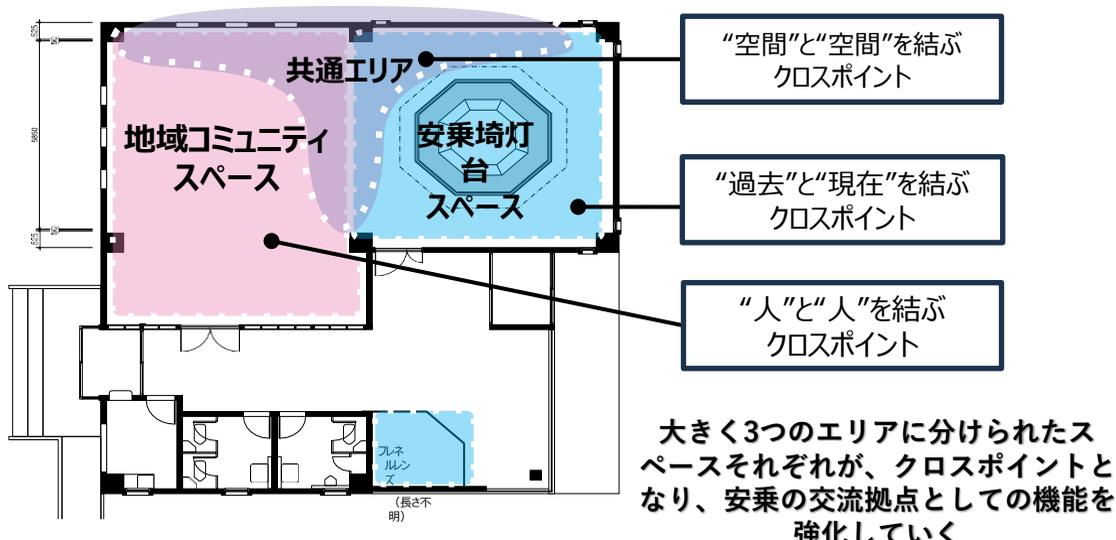
安乗埼灯台資料館館内リニューアル

事業活動その2：安乗埼灯台資料館館内リニューアル

「クロスポイント」概念による3つの交流・学習エリアの創出

コンセプト
灯台は「クロスポイント」
(3つの交わりを空間化)

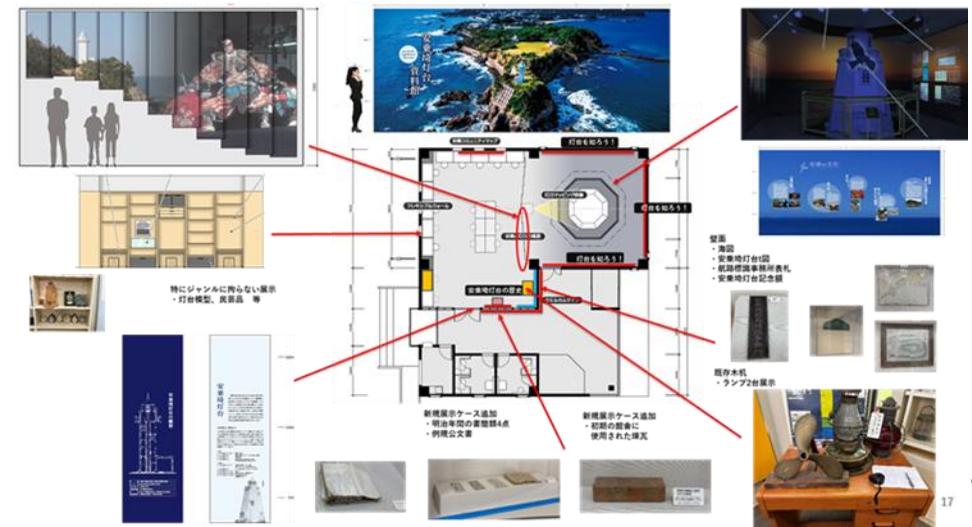
- 「人と人」：地域住民と来訪者の交流拠点
 - 「過去と現在」：灯台の歴史的背景と現代的価値
 - 「空間と空間」：海と陸を結ぶ結節点
- ➔ 館内を3つのゾーンに構成し機能を強化。
1. 共通エリア (エントランス・情報発信)
 2. 地域コミュニティスペース (多目的・WS)
 3. 安乗埼灯台スペース (学習・展示)



主な展示要素と計画

(歴史的資料の保全とデジタル演出の融合で、学びの質を向上)

- 安乗コミュニティマップ：来訪者参加型、地域情報発信
- フレキシブルウォール：WS等で多用途活用
- 灯台マッピング映像：灯台模型への投影で視覚的に歴史を没入体験
- 歴史展示：安乗の歴史壁面、新規展示ケース（書簡・公文書・初期煉瓦）、既存什器活用（ランプ・記念額・表札・海図）
- ウェルカムサイン：エントランスでの象徴的な導入演出



事業活動その2：安乗埼灯台資料館館内リニューアル

～リニューアルに向けて～

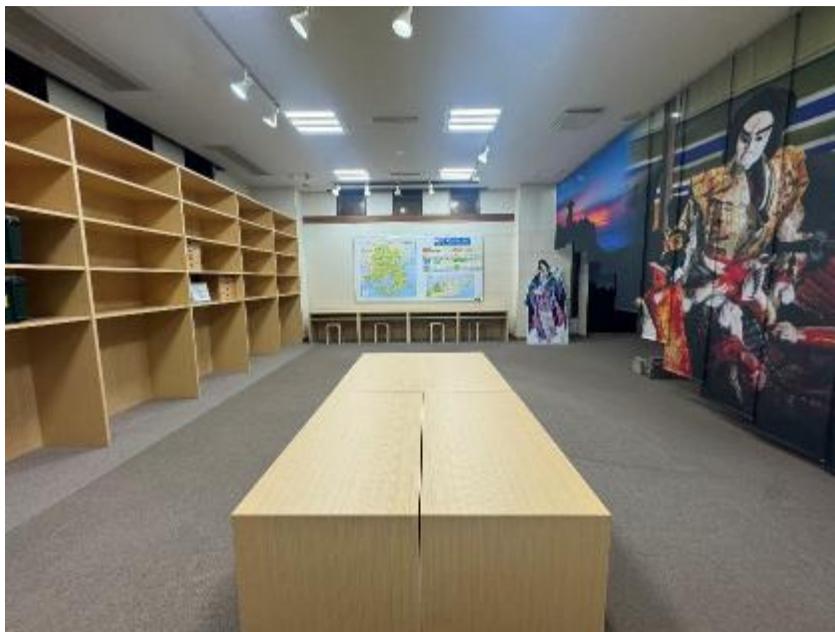
- 1 安乗岬園地周遊ガイド作成
- 2 受入環境整備

1 灯台資料館館内リニューアル工事と並行して、安乗岬園地周遊ガイド「安乗岬園地全体マップ」を作成。安乗埼灯台、資料館、きんこ芋工房上田商店灯台カフェの三点を繋ぎ、園地一体でのおもてなしを展開し、さらなる周遊を促進します！

2 灯台資料館館内リニューアルオープンに向けて、周辺の誘導サインを設置し、資料館外壁塗装も実施！また、周辺草刈などイベント等にも地域とともに参加し、機運醸成を図りました！



良かったこと



 回遊性が高まり、交流拠点化への機能強化が見込める
来訪者と地域の「クロスポイント」としての機能確立

 参加型・可変型展示によりWSや学習利用の幅が拡大

 単なる施設改修でなく、安乗地域全体での機運醸成

 オープン後の活用方法や計画の見通しを持てたこと



反省点・改善案



- ・ デジタル演出の保守・更新計画の明確化
- ・ 原資料の保存環境（光・湿度）と閲覧体験の最適化



- ・ 運営面：貸出・予約・防災（BCP）運用ルールの今後の整備

顧客ターゲットと 提供するベネフィット

【事業活動その1 安乗埼灯台町歩きトワイライトツアーの実施】

メインターゲット

1 家族連れ、歴史・文化愛好家

- ・灯台の歴史や役割を学び、地域の自然や文化に触れるガイドツアーは、子供たちの知的好奇心を刺激する。
- ・周辺地域の歴史、文化、伝統芸能などを巡るツアーは、文化体験志向層のニーズに届く。

サブターゲット

2 絶景・癒しを求める個人旅行者

- ・歴史、文化、食、絶景を凝縮した、高付加価値な体験型観光は個人旅行者の満足度を満たす。

【事業活動その2 安乗埼灯台資料館館内リニューアルの実施】

メインターゲット

3 地域住民

- ・地域の歴史や文化に関する展示を通じて、地域への理解と愛着を深める。
- ・地域住民同士や来訪者との交流を促進し、地域コミュニティの活性化に貢献。

サブターゲット

4 観光客

- ・灯台の歴史や役割に関する展示を通じて、観光資源としての価値を感じる。
- ・周辺地域の観光スポットやイベント情報を提供し、地域への周遊を促す。



それぞれの事業ターゲットにおける所感

1 安乗埼灯台町歩きトワイライトツアーにおけるターゲット

<メインターゲット> 家族連れ、歴史・文化愛好家

・アンケート調査の結果、親子参加の方からは食（きんこ芋スイーツ）の部分で高評価をいただき、食との連携は必須であると感じた。歴史好きの方からは、安乗の人形芝居の舞台裏を見れたことが高評価に。志摩市を代表する安乗の人形芝居はどの世代にも波及するコンテンツであることを再確認できた。

<サブターゲット> 絶景・癒しを求める個人旅行者

・評価は満足以上ばかりであったが、「早朝などの違う時間帯の灯台風景を見てみたい」など、ツアー時期や時間帯などを変更していく必要性を感じた。

2 安乗埼灯台資料館館内リニューアルにおけるターゲット

<メインターゲット> 地域住民

・2/1リニューアルオープンのため、すでに周辺住民からは何ができるの？との反応がある。また、地域の団体や安乗の人形芝居保存会などからは灯台映画上映会やきんこ芋WS、人形芝居練習会など様々な活用案をいただいております、多用途に活用できる地域コミュニティスペースへの期待値は高い。

<サブターゲット> 観光客

・こちらもオープン後の反応は調査予定だが、並行して進めている安乗周遊ガイドマップとの併用で周遊促進を図りたい。

良かったこと



-  町歩きツアーは灯台だけでなく、安乗地区の文化的な奥深さの再発見や郷土食の体験をいただく絶好の機会創出となった。また、夜間の魅力創出により新規需要を喚起できた。
-  地域WSから生まれた資料館館内リニューアルについては、地域が求める交流拠点となるような仕掛けを施した施工ができた。
-  今後の資料館活用については、今以上に地域団体と密接にかかわり、資料館活用例ではないが、WSのモデルケースを作っていく必要があることもわかった。
- 

反省点・改善案①

ツアーについては、季節毎や時間帯などバラエティにとんだ内容へ改編していき、飽きさせない工夫が必要。

反省点・改善案②

ツアーでは街灯の整備や雨天時の代替案などハード面でのニーズがあり、夜間参観における足元の安全動線確保と、効果的かつ安全な照明計画の改善が求められる。

反省点・改善案③

資料館をオープンするだけでなく、いかに活用するか、いかに学ぶかを行政と地域でまずは示していく必要がある。

反省点・改善案④

資料館整備と並行して、周辺の遊歩道の整備や枯れ松伐採など環境整備は随時更新していく必要がある。

チャネル

～顧客に事業の価値を届ける
経路、確認する経路～



認知の
獲得

SNSの活用 (Instagram等による発信)

マスコミへのリリース配信

主催者・協力団体によるネットワーク発信

隣接宿泊施設での案内・POP設置



興味関心の
獲得

灯台の歴史的価値や魅力のWEB発信

ナイトツアー・ガイドツアーの詳細情報公開

各種SNSでの視覚的魅力 (写真・動画) の訴求



再訪の
獲得

灯台参観参加者へのアンケート実施

ガイドツアー等への満足度調査

今後の期待や要望の収集・次年度への反映

日本郵船 海と灯台プロジェクト

このイベントは日本郵船「海と灯台プロジェクト」の一環で実施しています

安乗埼灯台町歩き トワイライトツアー

10.4 ± 16:00~
雨天時順延 翌5日(日)

特別な時間に訪れて、いつもと違う安乗埼灯台が見れるかも。

参加費 1人 1,000円
※灯台参観料含む
※500円チケット付
チケットは、きんこスイーツの上田商店で使用できます。

散策コース

- ① 安乗埼灯台口
- ② 安乗神社
- ③ 安乗人形芝居舞台 (内部見学可能)
- ④ 安乗埼灯台

大安御朱印もお受けいただけます!

安乗神社

安乗人形芝居

安乗埼灯台

1 周知に多くの認知を獲得

- ・チラシ作成/配布
 - ➔ 観光施設等を中心に掲示
- ・主催者・協力者のSNS周知や口コミ
 - ➔ 志摩市灯台活用推進協議会や地域振興団体など全面協力
- ・志摩市の市長記者会見にてプレスリリース&市長Xにて告知
 - ➔ TV局2社取材

2 事業価値の提供状況を確認

- ・イベント参加者へのアンケート
 - ➔ 参加券とセットにすることで回答率UP
- ・地域の求める声をヒアリング
 - ➔ 地域の祭りや他WSに積極的に参加し、地道な聞き取り調査を。飲食店とも連携。



良かったこと



 市のSNSやプレスリリースを中心に各種メディアと連携することにより、地域内外に幅広く周知をすることが出来た。関係者SNSを除いても、総PV数：479回 37媒体のネット記事掲載を得られた。

 SNS告知だけでなくチラシ掲示を追加したことで、SNSを見ない層へのアプローチに繋がった。



反省点・改善案



周知拡大は出来たが、県外への周知力に課題が残ったので、今後は他イベントへとコラボ出展など広域展開も視野にいたい。

顧客との長期的な
関係構築のために
実行できる施策

顧客との長期的な関係構築のために実行できる3つの施策

1

SNSの活用

イベント情報、灯台の魅力、地域情報を定期的に発信し、顧客との継続的なコミュニケーションを図ります。

2

地域住民の参画

地域住民をガイドツアーやイベント運営に積極的に巻き込み、地域一体となった持続可能な観光づくりを進めます。

3

限定体験の企画

ナイトツアーや特別公開など、ここでしかできない体験を提供し、顧客の特別感と愛着を醸成します。



1 SNSの活用

「あのりおこし」や「anori_shima」による配信継続

灯台の景色を中心に安乗埼灯台に関する発信を続けている。
安乗埼灯台プラス安乗地区全体のイベントなども発信し続けていくことで、
灯台に関心が薄い層も巻き込んでいきたい。

2 地域住民の参画

地域イベントやワークショップの開催

資料館リニューアル後の活用ワークショップや安乗地区の他団体ワーク
ショップやイベントに参加した。灯台観光に関する意見のみならず、地域
活性化に向けて意見交換した内容を安乗地区一帯となって推し進めたい。

3 限定体験の企画

灯台特別公開とトワイライトツアー

安乗地区でしか体験できない町歩きと灯台の薄暮参観を組み合わせたツ
アーで特別体験を企画。さらに、安乗岬園地周遊ガイドマップを並行する
ことで、安乗岬園地でしか体験できない観光モデルルートを作成。

👍 良かったこと



👍 本ツアー試行にあたり、志摩市を代表する「安乗の人形芝居」とコラボできたことが大きかった。今後も関係を構築していき、高付加価値な灯台観光を進めていく。

👍 安乗地区の他団体と交わることで、今後のまちおこしを地域一体となって推し進めていく礎ができたこと



反省点・改善案



あのりおこしが中心となるが、同じ方向性や思いを持った若手の担い手が必要になる。

事業に必要なリソース ～人、物、情報、許認可～

01

人、物、情報

人

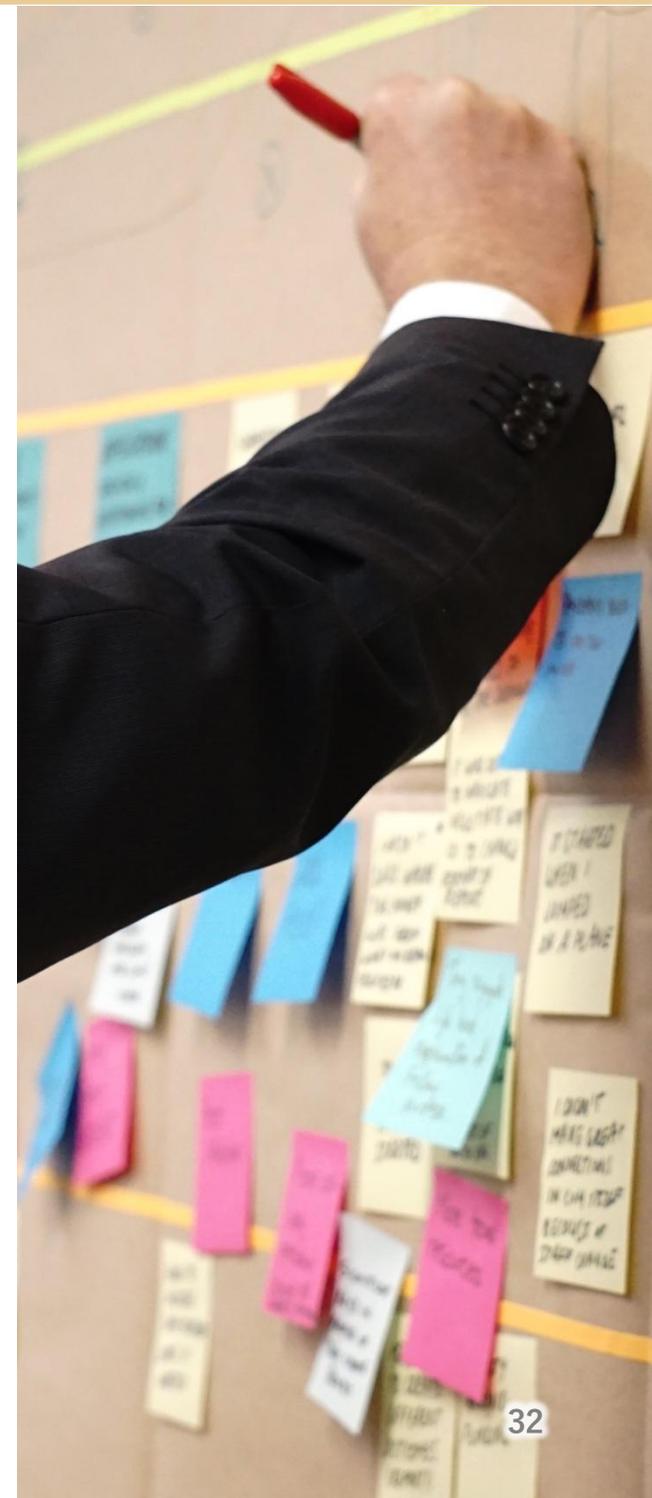
- ・あのりおこし（航路標識協力団体/運営中核人物）
- ・志摩市（安乗埼灯台資料館・安乗岬園地の設置管理者）
- ・きんこ芋工房上田商店灯台カフェ（安乗岬園地休憩舎指定管理者）
- ・公益社団法人 燈光会 安乗埼支所（安乗埼灯台資料館委託管理者）
- ・その他（協力者・企業・団体）

物

- ・資料館展示設備、誘導サイン等
- ・ツアー実施にかかるイベントグッズ
- ・広報関係（チラシ・InstagramなどのPRツール）

情報

安乗埼灯台の歴史や役割、安乗地区と安乗埼灯台にまつわる物語、安乗埼灯台資料館に求められるニーズ



1 人

限られたリソースで各自の持ち味を最大限に発揮

- あのりおこし：事業の舵取り、ツアーガイド役
- 志摩市：本事業の事務局及び調整役、ワークショップ実施、広報支援
- 上田商店：事業の食文化及びツアー協力
- 燈光会 安乗埼支所：灯台と資料館運営管理としての助言
- 協力者（志摩市灯台活用推進協議会・志摩市広報課・志摩市観光協会・志摩市磯部民俗資料館）：プロモーション協力及び資料館史実確認協力

2 物

交通インフラの補完ツールの必要性和広報ツールの広域展開

- ツアーでは薄暮時間帯ということもあり、参加者の安全性確保のため街灯や手持ちライトの必要性を感じた。
- イベント時の広報ツールとして、SNS以外に隣接宿泊施設へのチラシ掲示協力など地元も巻き込んだ展開が安乗地区全体の機運醸成を生む。
- 資料館リニューアルに関する最低限のハード整備は施工できた。

3 情報

安乗地区と灯台の成り立ちの深堀

- 安乗埼灯台の歴史や役割、安乗地区と灯台にまつわる物語については磯部民俗資料館とあのりおこし中心に深掘りできた。更なる地域ネタ等については、地域の生き字引的な人物への接触が必要。

👍 良かったこと

安乗埼灯台利活用推進事業



安乗埼灯台観光活性化推進コンソーシアム
あのりおこし・志摩市・志摩市灯台利活用推進協議会

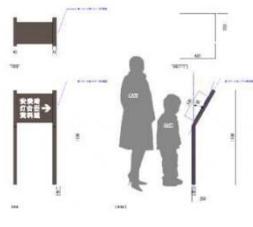
コミュニティスペース3か年活用計画 (令和8年度～令和10年度)

令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)	令和10年度 (2028年)
基盤構築期 地元ガイド養成講習・あのり学会 年間3～5回実施 (あのりおこし主催) あのりおこし・人形芝居保存会WS 地域文化解説ワークショップ (あのり有田会、保存会) きんこ手藝・灯台スイーツ教室 上田町立コラボによる地域産業体験 灯台学習講習会 志摩市灯台利活用推進協議会による講習会 灯台関係ノベルティ制作WS 志摩市灯台利活用推進協議会によるオリジナルグッズ制作ワークショップ 星空観望会・映画会 (あのりおこし、志摩市灯台利活用推進協議会共催) 安乗岬周辺の松林活用WS 松ぼっくりや灯台松を利用した自然素材作り (上田町立、あのりおこし共催)	発展期 地元ガイドツアー会場・あのり学会 年間3～5回実施 (あのりおこし主催) あのりおこし・人形芝居保存会WS 地域文化解説ワークショップ (あのり有田会、保存会) きんこ手藝・灯台スイーツ教室 上田町立コラボによる地域産業体験 灯台学習講習会 志摩市灯台利活用推進協議会による講習会 灯台関係ノベルティ制作WS 志摩市灯台利活用推進協議会によるオリジナルグッズ制作ワークショップ 灯台写真コンテスト大会 (あのりおこし、志摩市灯台利活用推進協議会共催) 安乗岬地区の子ども食堂 (上田町立、あのりおこし共催)	自立・定着期 地元ガイドツアー会場・あのり学会 年間3～5回実施 (あのりおこし主催) あのりおこし・人形芝居保存会WS 地域文化解説ワークショップ (あのり有田会、保存会) きんこ手藝・灯台スイーツ教室 上田町立コラボによる地域産業体験 灯台学習講習会 志摩市灯台利活用推進協議会による講習会 灯台関係ノベルティ制作WS 志摩市灯台利活用推進協議会によるオリジナルグッズ制作ワークショップ 安乗の空き家ワークショップ 地域課題解決に向けた取り組み 年間プログラムの確立 自主できるイベントを構築し、定着イベントの検証
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の参加促進と活動基盤の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化の継承と多様な連携の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動の定着と年間計画化

SNS映え壁アート・クリア大安御朱印

誘導サイン

安乗岬園地3点周遊エリアマップ



地域自走の基盤構築

ツアーで使用する台本やフリップ、安乗岬園地マップなど、今後、地域で継続的に実施していくうえで活用できるグッズを制作することができた。



資料館活用3か年計画の策定

地域の声や思いを形にした資料館の今後についてワークショップを実施。地域活用計画を策定できた。



反省点・改善案



- ・ イベント実施時の宿泊施設との連携体制は今後の課題であり、大きな可能性を秘めている。
- ・ 地域自走の見通しの中で、あのりおこしと同じ方向性を持つ地域振興団体との連携や地域若手の育成が必要。

02

許認可

許認可

志摩市

市有地・行政財産使用許可

海上保安庁

国有地および灯台使用許可

環境省

伊勢志摩国立公園内の許認可

1 海上保安庁との連携

航路標識協力団体としてさらなる飛躍へ

< 海上保安庁航路標識協力団体活性化に向けた連絡会議への出席 >
志摩市の協力団体3団体で出席！灯台観光のさらなる活用と連携を行う！

- ◎あのりおこし（安乗埼灯台）
- ◎一社じゃまテラス（大王埼灯台）
- ◎志摩市灯台活用推進協議会（安乗埼灯台、大王埼灯台）



2 環境省との連携

伊勢志摩国立公園内での受け入れ環境整備

< 地域とともに灯台周辺クリーンアップ作戦！ >
令和8年伊勢志摩国立公園指定80周年の機運に
のり、灯台周辺の環境整備を精力的に実施しました。



メディア露出

10月5日 三重テレビ「NEWSウィズ」



総PV回数：479回！
のべ37媒体にて掲載！

志摩市観光協会 ウェブサイト



10月8日 松阪ケーブルテレビ「ニュースMCTV」



海と日本プロジェクトin三重県 ウェブサイト



今後について

A. 事業について

課題

資料館リニューアル後の活用方法の定着

- ・地域住民や来訪者の交流拠点づくりが必要
- ・来訪者の滞在時間延長と満足度向上

定期的なツアー開催に向けた体制作り

- ・属人的なスキルに頼らず、地域住民や協力者を巻き込み、持続可能なチームづくりが必要



施策

◎地域WSを通じた多目的な活用モデルケースの具体的な創出と横展開（灯台映画上映会や安乗学会WS）

◎資料館をゲートウェイと位置付け、灯台、灯台カフェとの周遊性強化イベントの実施（安乗周遊マップ活用）

◎地域ガイド養成講座の実施・運営マニュアル整備

B. 実施体制について～熱量をもった主体となる団体や個人を巻き込むこと～

課題

コンソーシアム主導から地域主体の運営体制への段階的移行。

- ・滞在時間を延ばすための地域宿泊事業者や地域振興団体との連携強化
- ・自走体制を促進するための地域の若手・後継者が必要



施策

◎宿泊事業者と連携した滞在型プランの造成（安乗旅館組合との協働や安乗の人形芝居保存会とのWS体制構築）

◎地域の若手を中心とした新たな担い手の発掘と巻き込み（あおりふぐ祭りやあおり有志会とのコラボ企画）

C. 収支について～運営費と収益を将来にわたって均衡させること～

課題

安定的な自主財源の確保
一過性のイベントからの脱却

- ・地域で自走していくための財源確保が必要
- ・単発の集客イベントではなく、資料館を活用したWSから、収益を生み出すビジネスモデルへの転換が必要



施策

◎町歩きトワイライトツアーの商品化（参加料の値上げ、参加枠の拡大により収益化見通しあり。パッケージ化し、OTA等での販売も見込む。）

◎資料館活用WSの展開（郷土食WSや安乗文化WSを定着化していき、収益を生み出すロールモデルの創出）

本事業の最終目標である「自走」体制の確立に向け、これまでの成果を基盤に、更なる体験価値の向上と広域連携を図り、安乗地区の地域資源を最大限に活かし、持続可能な発展を目指していきます。

【Future / 今後の展望】 持続可能な地域活性化に向けた具体的アクション

以下の5つの重点施策を実行し、課題解決と発展を図ります。



ツアーコンテンツの拡充

ガイド養成・マニュアル化



リニューアル後の運用構築

各ワークショップの実施・交流拠点



宿泊事業者との連携強化

滞在型観光プランの造成



地域の担い手育成と発掘

地元他団体とのコラボ協力



自走体制の確立と収益化

収益モデル強化・販路開拓

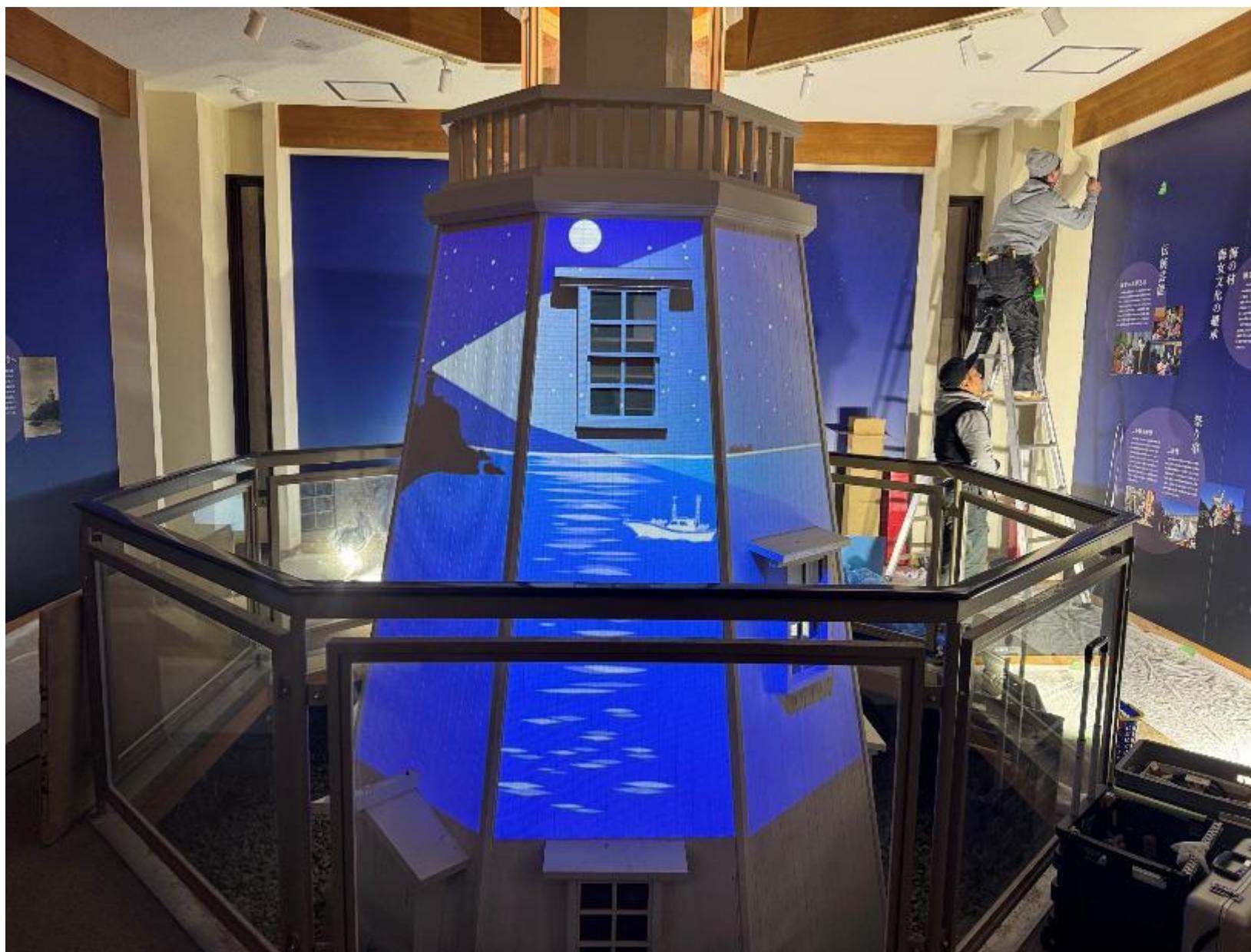
事業名：安乗埼灯台利活用推進事業

助成金終了後、本事業は新たな灯台利活用モデル事業が定義する「自走化4分類」のうち、以下を目指します

本事業が 目指す型	分類	自走化の方法	中心となる事業者
✓	I ビジネス型	灯台および付属施設等をホテルなどに利活用する、 または 灯台および周辺地域の魅力をコンテンツとして利活用することで、 <u>ビジネスとしての収益化を達成し、自走する。</u>	民間事業者
	II 非営利 収支均衡型	灯台及び周辺施設等を活用し、 イベント開催や観光ガイド等を組織しながら、主として、 <u>収支均衡となるような小規模の地域活性化事業を行い、 非営利団体として、自走する。</u>	非営利任意団体、 NPO等
	III 自治体 補助金型	自治体が主体となり、 新たに地域課題や観光資源の一つとして 灯台及び周辺施設等を位置づけることにより、 <u>自治体の予算やリソースが投入され、自走する。</u>	自治体
✓	IV お祭り協賛型	灯台に係るイベントを開催することで、 灯台を含むエリアの新たな価値と集客・PR効果を創造し、 <u>地元自治体や地域企業からの協賛金や、出店料、 参加者から入場料などの イベント収益によって、自走する。</u>	イベント事業者、 放送局

資料

安乗埼灯台資料館館内リニューアル施工写真（安乗埼灯台スペース）



安乗埼灯台資料館館内リニューアル施工写真（地域コミュニティスペース）



安乗埼灯台資料館館内リニューアル施工写真（共通エリア）

